

猪谷寛教授退任記念論文集の刊行にあたって

経済学部長・経済学会長 角 田 修 一

猪谷寛先生は、2002年3月をもって、定年により立命館大学教授の職を退かれます。

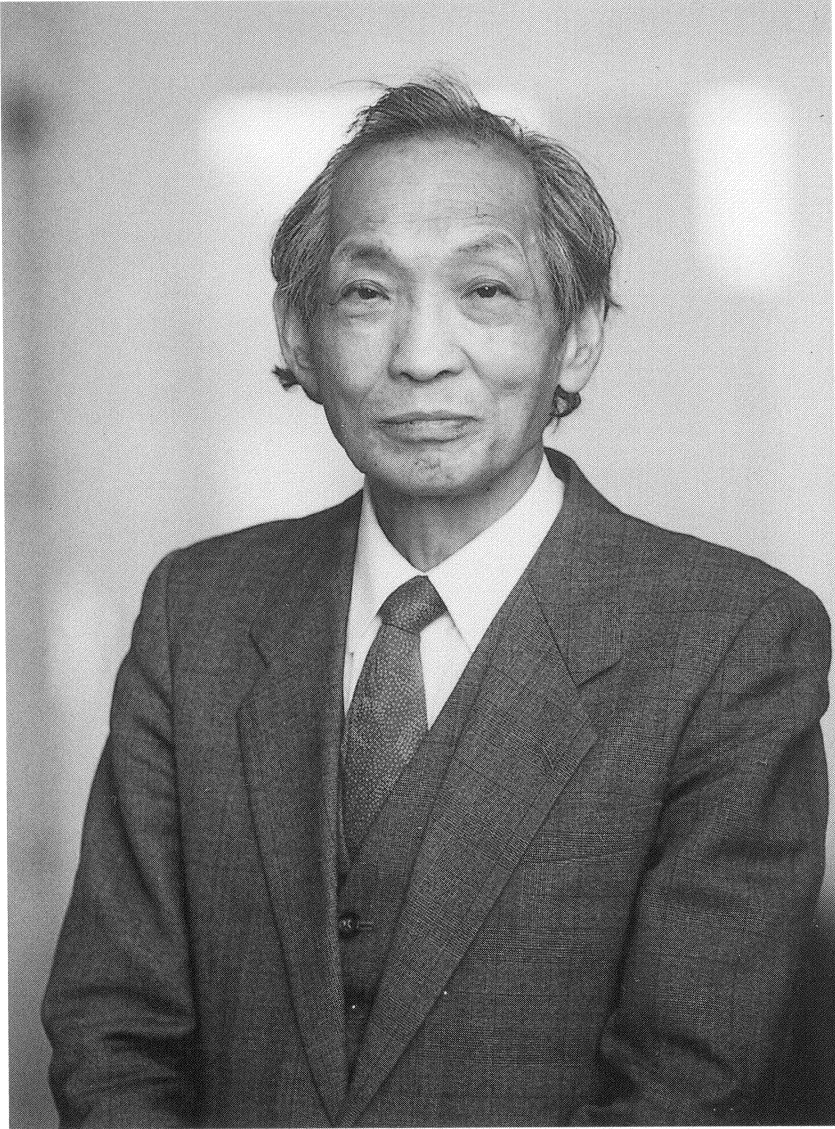
猪谷先生は、1978年に立命館大学経済学部助教授として赴任され、それ以来、24年の長きにわたり、立命館大学および経済学部の発展のために尽力してこられました。経済学会として、この間の先生のご功績をたたえ、そのお人柄を敬愛し、『立命館経済学』において退任記念論文集を編集・刊行することにいたしました。

猪谷先生は、1937年にお生まれになり、1960年京都学芸大学英語英文科をご卒業になりました。1969年に、州立ハワイ大学アメリカ研究学部修士課程におすすみになり、1971年に同課程を修了し Master of Arts の学位を取得されています。その直後の1973年からすでに非常勤講師として立命館大学で教えておられますので、本学での教育歴は30年に近いものです。

先生は、1978年に本学に赴任され、1983年から教授として教壇にたっておられます。1991年度には「外国語教育委員会委員長」として、全学の外国語教育に責任をもつ大役をこなしておられます。また、1998年度学校法人立命館評議員、2000年度大学協議員（経済学部選出）などの重要役職を歴任されました。このように、先生は、本学の英語教育において一貫して積極的で中心的な役割をはたしてこられました。先生の専門分野は Henry James, T. S. Eliot にはじまり、構造主義や精神人類学の成果をふまえた英語教育論、さらに比較文化論とたいへん幅広いものがあります。また、教育においては、英語および世界の言語と文化などをつうじて本学の外国語教育に貢献してこられました。

猪谷先生は、つねに悠然とした構えで事に臨まれ、時に多少の皮肉をこめたご意見を述べられることもありました。じつはたいへんなロマンティストではないかと推察いたしております。

立命館大学は、猪谷先生の長年のご努力・ご貢献に対し、名誉教授の称号をお送りすることになりました。先生は、いまでもお元気で定年をお迎えになります。21世紀にはいり、世界は混迷と流動の最中にありますが、今後わたくしたちはますます文化と文明をめぐるさまざまな諸問題に対処していかなければなりません。そこでは、たえず「ことば」と文化のあり方がそうした諸問題と深く関連して生起してくるだろうと思います。猪谷先生には、引き続き、「ことば」と文化のご研究をつうじて、人類の相互理解のすすめ方についてご教示願えるものと期待しています。今後もあらゆる機会に、わたしも後身への指導と援助をたまわりますようお願いするとともに、先生のいっそうのご健勝とご活躍を祈念し、記念論文集刊行にあたっての言葉とさせていただきます。



猪谷 寛教授 近影